

JAPAN CUP2025 日本選手権大会

～Division 1 大学部門 日本体育大学が4年ぶりの優勝～

JAPAN CUP2025 チアリーディング日本選手権は、最終日（8月31日）に各部門の決勝が行われ、自由演技競技ディビジョン1大学部門は日本体育大（東京都）が2021年以来の頂点に立った。高等学校部門は箕面自由学園高（大阪府）、中学校部門は伊豆の国チアリーディングチーム・A（静岡県）、社会人部門はクラブチームツイスターズ・Aが制した。

前日の準決勝を2位通過した日体大は演技構成にトリプルアップ3台を組み込み、ミスなく終盤を迎えた。しかし、最後のピラミッドでトップが落下。逆転優勝は難しいと思われたが、続いて登場した4連覇を狙った帝京大（東京都）が3層のピラミッドに対するスポッターの不足による安全規則違反による減点を課されるなど、ミスが続いたことで得点が伸び悩んだ。

日体大が決勝演技得点272.5（準決勝からの持ち点を加えた合計得点404.5）に対し、帝京大は258.0（合計得点387.0）。結果発表を待っていた日体大の選手たちの悔し涙は嬉し涙に変わった。

日体大のヘッドコーチは「1曲目のパートナースタンツで倒立までのフルツイスト（1回横回転）など、難しい技を選手たちがよくやってくれました。トリプルアップ3台もなんとか成功してくれた」と笑顔。高校時代に優勝経験のある選手など1年生4人をマットに送り出し、「新入生たちが新しい風をもたらしてくれて、いつも以上に勝ちたいという思いがチームに充満していた」と明かした。

この日が22歳の誕生日だというキャプテンも「やり切りました。今年は絶対に日本一を取り戻したかった」と喜びで目を潤ませた。



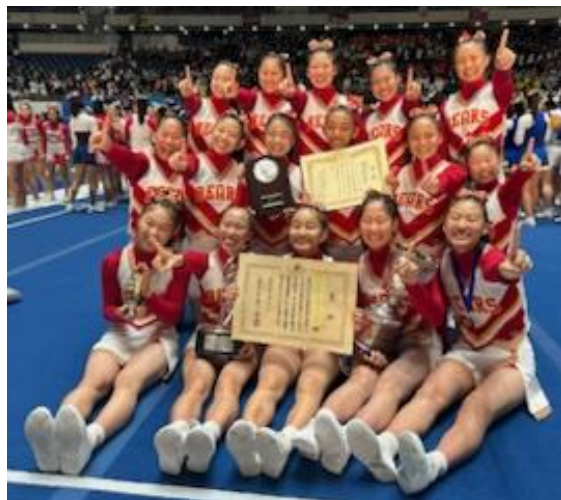
大学部門 優勝 日本体育大学

高等学校部門を制した箕面自由学園高は、コロナ禍で接触のないチアリーディングスピリッツ演技競技での開催となった2020年を含めると大会6連覇。

リワインド（宙返り）で3-3-2にクライミングした後、2台のダブルアップ1-1-1へ展開するピラミッドや、チアでの2-2-1からのフルトウタッチ（1回横回転後の開脚）へ展開する等、オリジナルの演技を組み込んだ。

パートナースタンツではエクステンションの高さでのインバージョン（倒立姿勢）から、リバティを4台を決め、決勝での演技得点は278.5（合計413.0）と、全部門の決勝演技での最高得点賞を獲得した。

コーチは「会場で見てくださいる人たちにチアは最高！ということを伝えたかったです」と語り、キャプテンも「私たちが日本一のチアリーダーだということを見せたかった」と笑顔を見せた。



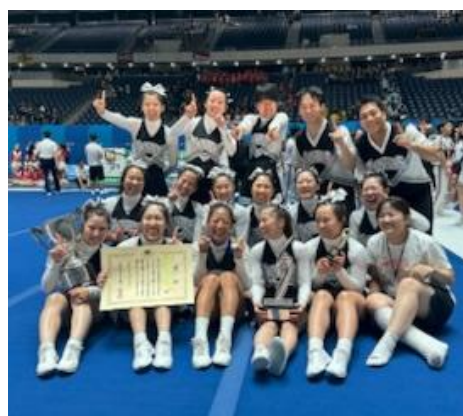
高等学校部門 優勝 箕面自由学園高等学校

伊豆の国チアリーディングチーム・Aは初優勝した昨年に続く連覇。完成度の高い演技を見せたことで、コーチは「基礎からしっかりやってきた結果が、決勝でのノームスの演技につながったと思います」と嬉しさをにじませた。

自由演技競技小学校低学年部門はチアリーディングチーム PUPPYS（富山県）、小学校高学年部門はあつぎチアリーディングチーム（神奈川県）が優勝。小学校部門の総合優勝はあつぎチアリーディングチームが輝いた。



中学校部門 優勝
伊豆の国チアリーディングチーム・A



社会人部門 優勝
クラブチームツイスターズ・A

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.